

平成22年度事業報告

1) 全国大会・支部大会の開催

春季に会員の研究発表、分科会等を含む全国大会を開催すると共に支部の大会開催及び支部活動の充実を進めた。

(1) 全国大会

- ・開催日程 平成22年5月21日（金）～24日（月）
- ・開催場所 平成22年5月21日（金）：名古屋市内(名古屋城二の丸庭園、徳川園 など)
5月22日（土）：名城大学天白校舎（総会、学会賞表彰式・受賞者講演会、学生公開アイデアコンペ審査結果発表・表彰式、交流会、公開シンポジウム、ミニフォーラム、ポスター展示 等）
5月23日（日）：名城大学天白校舎（研究発表会、ポスター展示、学生公開アイデアコンペ作品展示会 ミニフォーラム 等）
5月24日（月）：ウインク愛知（分科会）

参加者数 延1,172名

研究発表件数 86件

・大会内容（報告）

平成22年度日本造園学会全国大会は5月21日～24日の4日間にわたり、名古屋市の名城大学天白校舎を主会場として開催された。

1日目の21日には、「名古屋観光ルートバス(メーグル)」を利用した自由見学会が開催された。名古屋城二の丸庭園と徳川園で解説者による説明があった。

2日目の22日には、名城大学天白校舎共通講義棟北N101にて、宮城俊作企画担当常務理事の司会・進行のもと、10時より11時まで武内和彦会長を議長として通常総会が開催され、提出された第1号議案から第5号議案が審議の結果、全て承認された。

総会に引き続き、11時より同会場にて、学会賞表彰式、受賞者講演、学生公開アイデアコンペ審査結果発表・表彰式が開催された。学会賞論文部門2件2名、技術部門1件1名、設計作品部門2件3名、奨励賞論文部門6件6名、技術部門2件2名、設計部門2件4名、上原敬二賞2名、学生公開アイデアコンペ最優秀賞2件5名、優秀賞2件4名、佳作4件8名が表彰され、学会賞受賞者記念講演が行われた。

14時から16時30分まで同会場にて、「国際生物多様性の日」記念シンポジウム「都市と里山」が開催された。(シンポジウム参加者222名)。

また、11時から12時30分まで、および、16時30分から18時まで、同棟N102～104にて、ミニフォーラム「海浜植物群落の保全・再生に向けて地域住民にどのような働きかけが重要か」、「都市・地域づくりにおける生物多様性保全・回復とRLAの役割」、「硬度専門職業人としての環境・造園系技術者養成のあり方(その1)」、「風景評価の異文化比較～日露風景比較プロジェクト・結果報告～」、「(社)日本造園学会『造園作品選集』創刊20周年記念 ランドスケープデザイン20年の軌跡」、「RLA資格制度の軌跡とこれからの展望」が開催された。

18時から名城大学タワー75 15階レセプションホールにて、交流会が行われた(交流会参加者142人)。

22日から、同棟N237、N505-508、N512-516にてポスター展示が行われた。学生公開アイデアコンペの作品や、研究発表等のポスターが展示された。

3日目の23日には、9時30分から18時まで、同棟N202～207にて、研究発表会が開催され86件の発表が行われた。また、ポスター展示会場では12時30分から14時までコアタイムが設けられ、発表者・展示者による説明と参加者を交えた議論が行われた。

このコアタイムの時間帯には、学生公開アイデアコンペ作品展示会場であるN237ではミニフォーラム「学生アイデアによる都市の生物多様性の創出についての提案をめぐって」も開催され、入賞作品の紹介や講評、討論が行われた。

4日目の24日には、名古屋市内の愛知県産業労働センター「ウインクあいち」内の4会場(1101～1104)にて分科会10テーマが行われた。9時30分から11時30分まで「公共造園空間(街路空間)の発注者・管理者・設計者・施工者、利用者・市民の認識の差異と空間評価について」、「ランドスケープ遺産インベントリーづくりの方向性を考える」、「生態工学に関する企画展示」、12時30分から14時30分まで「クオリティライフの構築に向けたパークマネジメントプランの意味と役割」、「欧州ランドスケープ条約が東アジアのランドスケープ政策に示唆すること」、「エコロジカルデザイン論」、14時45分から16時45分まで「公園ユニバーサルデザインに関する取り組みの現状と課題」、「市街地の集合住宅の緑の価値と充実を考える」、「“アーバンイズム”とどう向き合うか?その8」、「遊具のリスクマネジメントの動向と課題」が開催された。

以上、3日間にわたる全国大会の参加者は総数 1,172 名(見学会 35名、シンポジウム 222名、総会・ミニフォーラムなど 313 名、研究発表会・ポスター展示 427名、分科会など 175名)を数え、盛況のうちに終了した。

本大会の運営に御尽力された大会運営委員会および関係各位に謝意を表する次第である。

(2) 関東支部大会

- ・開催日程 平成22年11月6日(土)、7日(日)
- ・開催場所 11月6日：神奈川県立城山公園ほか(神奈川県大磯町)
7日：日本大学湘南キャンパス(神奈川県藤沢市)
- ・参加者数 11月6日：24名 7日：115名
- ・大会内容

《大磯町の邸園文化まちあるき》

6日10時から12時まで、大磯町ガイドボランティア協会のご協力により、大磯町の別荘邸宅や邸宅跡地をめぐるまちあるきを開催した。

《公開研究会》

6日13時から16時まで大磯町立郷土資料館内研修室にて、公開研究会「ランドスケープ遺産は誰が継承するのか」が行われた。話題提供として、矢野孝氏(大磯町都市計画課長)、岡田範正氏(大磯町ガイドボランティア協会)、大倉祥子氏(大磯町観光協会理事)、阿部勉氏(葉山環境文化デザイン集団理事)、平井太郎氏(小田原まちづくり応援団)より、大磯町や近隣地域の邸園文化保全の取り組みや課題が紹介された。白井充氏(神奈川県平塚土木事務所)、屋代雅充氏(東海大学観光学部)、小野良平氏(東京大学大学院農学生命科学研究科)から、文化財保全の課題や学会の役割に関するコメントがあり、参加者を交えて意見交換が行われた。

《事例・研究発表会》

口頭発表は7日午前9時30分から12時15分まで2会場にて開催された。ポスター発表は13時30分から15時まで

開催された。各会場とも活発な議論が行われた。ポスター発表では発表者が所定の時間に研究内容を概説するポスターツアーが行われた。

《学生作品展示レビュー》

7日13時30分から15時まで、造園系大学の学生が実習やコンペで作成した8作品を展示し、実務者を交えたレビューが行われた。

《コンクール受賞作品展示》

7日13時30分から15時まで、一造会大賞や都市公園コンクールなど7コンクールでの受賞作50点を展示した。

《学生デザインワークショップ》

7日15時から17時までデザインワークショップ「サマースタジオ2010千年のランドスケープ」が開催され、都圏の大学に在学する学生達がランドスケープデザインの実務者をチューターとして制作に取り組んだ成果が発表された。発表に対して活発な意見交換が行われた。

《懇親会》

7日17時15分から懇親会が開催され、参加者相互の交流と親睦を図った。参加者数はおおよそ80名であった。

(3) 関西支部大会

- ・開催月日 平成22年12月4日（土）～5日（日）
- ・開催場所 鳥取（鳥取環境大学（4日）、鳥取大学（5日））
- ・大会内容

12月4日（土）に研究・事例発表セッション（口頭発表、ポスター発表）、ランドスケープ遺産研究会、関西支部賞発表・表彰式、幹事会、支部総会と交流会が、25日（日）に見学会とシンポジウムが行われた。大会1日目は93名（うち学生34名）、交流会は58名（うち学生24名）、大会2日目の見学会は27名（うち学生5名）、シンポジウムは90名の出席があった。

《研究・事例発表セッション》

4日11時より13時と15時45分より17時45分まで2会場で26件の口頭発表があった。13時30分より14時15分までは6件のポスター発表と、1件の営業展示が行われた。いずれの会場でも充実した発表が行われ、出席者の活発な議論が繰り上げられた。また、発表要旨集に広告掲載を募集し、18社から得た。

《支部総会》

4日14時15分から14時45分まで、宮前支部長による議事進行のもと以下の報告と協議が行われ、全件異議なく承認可決された。

- ・平成21年度会計報告および会計監査報告
- ・平成22年度事業経過報告
- ・平成23年度事業計画（支部大会を兵庫にて開催する）
- ・兵庫県新行財政構造改革推進方策（第2次）への支部としてのパブリックコメントの提出、文言の幹事会への一任（林氏の提案に基づく）

なお、若生氏より、メーリングリストの作成が課題との意見が出された。

《ランドスケープ遺産研究会》

4日14時45分より15時45分まで、若生氏の進行によるランドスケープ遺産研究会が行われた。関西支部から今西氏、橘氏、林氏の話題提供があり、重要性和緊急性の考え方についての議論が行われた。

《関西支部賞発表・表彰式》

4日17時45分より18時まで、昨年度からの取り組みである平成22年度日本造園学会関西支部賞の発表と表彰式が行われた。支部長、副支部長による選考の結果、口頭発表の第1会場からは高橋美和氏（兵庫県立大学／淡路景観園芸学校）、第2会場からは佐藤広弥氏（京都府立大学）、ポスター会場からは家本智氏（街区公園お調べ隊）らの発表が選出され、表彰を受けた。

《交流会》

4日19時から21時まで、交流会が開催された。鳥取環境大学の古澤学長、中瀬元学会長による挨拶に始まり、終始和やかな雰囲気の中、活発な交流が行われた。最後に学会本部の島田監事、鳥取環境大学の十倉建築・環境デザイン学科長、次期開催予定地の田中（充）副支部長の挨拶にて閉会とした。

《見学会》

5日9時から13時まで、山陰海岸ジオパークをテーマとして、浦富海岸、鳥取砂丘の見学を行った。

《シンポジウム》

5日14時から17時まで、「山陰海岸ジオパークとランドスケープ」をテーマに、第1部では西田良平氏の基調講演「山陰海岸ジオパークのトータルコンセプト」が行われ、第2部パネルディスカッションでは多様な分野のパネリストによる討議があり、住民主体の地域文化、景観資源の保全と活用に向けて、活発な議論が繰り広げられた。

(4) 九州支部熊本大会

- ・開催日程：平成22年11月27日～28日
- ・開催場所：崇城大学 情報学部棟
- ・見学会： 熊本市の巨樹と江津湖公園
- ・大会内容（報告）

平成22年度日本造園学会九州支部熊本大会は、「都市の品格と造園まちづくり」を大会テーマとし、日本造園学会九州支部熊本大会実行委員会主催、全国都市公園整備促進協議会の共催のもと、崇城大学で開催された。第1日目は、研究・事例報告会（口頭発表、ポスター発表）、総会、みどりの市民講座、基調講座、パネルディスカッション、パネル展示、そして交流会が行われ、2日目は熊本市の巨樹と江津湖公園の見学が行われた。

《研究・事例報告会》

11月27日9：00から12：30まで研究・事例報告会を実施した。口頭発表は2会場で15件、ポスター発表は8件で、合計23件である。参加者は一般71名、学生37名、合計108名の参加が得られ、活発な議論が行われた。

《支部総会》

14：20から14：50まで、北川博良支部長を議長とし、西田益温氏と井村久行氏を議事録署名人として、平成22年度九州支部総会が行われた。支部長挨拶の後、平成21年度の活動報告、会計・監査報告、平成23年度予算について了承された。続いて、平成23～24年度の支部長として矢幡久氏、および監事として重松敏則氏ならびに光延勇樹氏の選出が行われた。本熊本大会の報告の後、九州支部研究・教育活動基金委員会の報告、および九州支部平成23年度鹿児島大会について紹介が行われた。なお、九州・沖縄造園遺産の取組みを進めることについて確認された。

《みどりの市民講座》

13：30から14：50まで、市民に開かれた市民のための造園学会という考え方のもとにみどりの市民講座を実施した。クリスマスリースづくり講座とミニ門松づくり講座が行われ、合計50名の参加が得られた。

《パネル展示》

9:00から17:00まで、館内で熊本の造園遺産と湧水群、都市公園指定管理の取組事例紹介、そして、造園系学校の紹介についてパネル展示が行われた。

《基調講座・パネルディスカッション》

基調講座は15:00から16:00まで、公立大学法人熊本県立大学理事長の蓑茂寿太郎氏を講師に、「ランドスケープ遺産と地域づくり ～九州での可能性は如何に～」と題し、講演を頂いた。パネルディスカッションは16:10から18:00まで「九州のランドスケープ遺産と地域づくり」のテーマに沿って、蓑茂寿太郎氏のコーディネートのもとに、崇城大学工学部の天本徳浩氏、九州大学大学院芸術工学研究院の包清博之氏、環境省九州地方環境事務所の神田修二氏、国営海の中道海浜公園事務所の田畑正敏氏、そして、南九州大学環境園芸学部の永松義博氏から話題提供が行われた。国営吉野ヶ里歴史公園事務所の井村久行氏、西日本短期大学の西田益温氏よりコメントが述べられ、今後、九州・沖縄ランドスケープ遺産の取組を進めることがアピールされた。会場には220名の参加が得られた。

《交流会》

18:00から交流会が開かれ、造園学会会員ほか多くの関係者、116名が参加して情報交換と親睦が行われた。

《エクスカージョン》

大会2日目は、熊本市内にある寂心さんのクスノキ、水前寺江津湖公園、そして藤崎台のクスノキの見学が行われ、合計17名の参加者があった。

(5) 北海道支部大会

- ・開催日程：平成22年9月4日（土）、5日（日）
- ・開催場所：かでの2・7、旭山記念公園、円山公園（北海道札幌市）
- ・大会内容（報告）

平成22年度日本造園学会北海道支部大会は、9月4日から5日に開催された。かでの2・7を会場に、研究・事例報告会、北海道学生セッション、支部総会、環境省北海道地方環境事務所と共催のフォーラム「北海道の緑と生物多様性」の基調講演、パネルディスカッション、東北支部との交流会、エクスカージョンが行われた。大会参加人数は73名（内、学生22名）、フォーラム参加者数150名であった。

《研究・事例報告会》

研究・事例報告として2会場で13件の口頭発表および5件のポスター発表が行われた。

《北海道学生セッション》

学生による19件のポスター発表が行われた。審査を行い、調査・研究部門で優秀賞1点、佳作1点、設計・計画部門で佳作1点を選定して表彰を行った。

《支部総会》

平成21年度事業および会計報告、平成22年度事業計画及び予算案についての協議が行われ、いずれも異議なく承認可決された。

《フォーラム》 「北海道の緑と生物多様性」

(環境省北海道地方環境事務所と北海道支部の共催で実施)

【話題提供】

「生物多様性とCOP10」 坂本 真一 氏（環境省北海道地方環境事務所）

【基調講演】

「雑木林はテーマパークだ！」

講師	柳生 真吾 氏 (八ヶ岳倶楽部代表)
【パネルディスカッション】	「北海道の緑と生物多様性」
パネリスト	笠 康三郎 氏 (緑花計画)
	鈴木 玲 氏 (雪印種苗)
	草苺 健 氏 (NPO法人苫東環境コモンズ事務局)
	坂本 真一 氏 (環境省北海道地方環境事務所)
コメンテーター	柳生 真吾 氏
コーディネーター	近藤 哲也 氏 (北海道大学大学院農学研究院)

《エクスカーション・東北支部交流会》

9月5日(日)に、札幌市旭山記念公園、円山公園を訪れ、その後東北支部との懇談を行った。

(6) 東北支部大会

- ・開催日程：平成22年10月23日(土)～24日(日)
- ・開催場所：宮城大学太白キャンパス
- ・大会内容(報告)

平成22年度日本造園学会東北支部大会は、「東北のランドスケープ遺産を考える」を大会テーマとして、宮城大学太白キャンパスを会場に開催された。23日は支部総会、シンポジウム、ポスターセッション及び交流会を行い、24日はエクスカーションを行った。

◆10月23日(土)

《支部総会》

平成21年度事業報告、収支決算報告及び監査報告、平成22年度事業計画、予算及び事業経過について議案が提出され、いずれも異議なく承認可決された。(参加者21名)

《シンポジウム》

はじめに、栗野隆氏(東京農業大学地域環境科学部造園科学科助教)より「ランドスケープ遺産インベントリーづくりに向けた課題-議論・検討の足がかりとして-」と題して基調講演が行われた。続いて、温井亨氏(公益文化大学)のコーディネートのもと、佐藤 栄氏(手形造園土木(株) 秋田県)、及川純一氏((有)環境造景研究所 岩手県)、渡部桂氏(東北芸術工科大学 山形県)、市岡綾子氏(日本大学 福島県)、鎌田智之氏(登米市 宮城県)、森山雅幸氏(宮城大学 宮城県)が各県のランドスケープ遺産についての紹介を行いつつパネリストとなり、参加者を交えたディスカッションが行われた。(参加者50名)

《ポスターセッション》

小林章氏(東京農業大学)、増田豊文(東北文化学園大学)、嶋倉正明(嶋倉風景研究室) 名嶋英二(東北緑化環境保全株式会社)、中嶋紀世生(宮城大学)、高山桂(宮城大学)、渡辺清美(宮城大学)、鈴木詠理(宮城大学)、鈴木翼(東北芸術工科大学)、鎌田智之(登米市)、森田均(株式会社ドーコン)から11件の発表が行われた。活発な質疑応答や議論が行われた。(参加者50名)

《交流会》

パネリスト、会員、学生や関連業種の方々など、参加者相互の交流と親睦を深めた。(参加者27名)

◆10月24日(日)

《エクスカーション》9:00～16:30

登米市加藤家住宅(国指定登録有形文化財)、葛西氏居城跡・草飼山、旧登米高等尋常小学校(国指定重要文化財)、登米市武家屋敷、森の能舞台(隈研吾設計)、北上川船下り、脇谷閘門(県近代文化遺産)を見学した。(参加者24名)

(7) 中部支部大会

- ・開催日程 平成22年10月30日(土)～31日(日)
- ・開催場所 長岡造形大学(長岡市)

日本造園学会中部支部大会は平成22年10月30日(土)～31日(日)長岡大学に於いて開催された。(大会実行委員長 飛田範夫:長岡造形大学教授)

スケジュール:30日 見学会・懇親会 31日 総会・研究発表・事例報告会・中部地区ランドスケープ遺産検討会・公開シンポジウム

大会参加者:大会参加者 46名・研究発表・事例報告(口頭発表2会場 22件、ポスターセッション 7件)

《見学会の開催》

- ・10月30日 山古志(長岡市)の中越大地震被災地

《支部総会》

平成21年度事業及び会計報告並びに監査報告、平成22年度事業計画及び予算案が承認可決された(本部から下村彰男総務担当理事)。

《公開シンポジウム》

- ・10月31日 公開シンポジウム(長岡造形大学)

「山古志地域の景観と震災復興」 参加者約50名

- ・基調講演:平井邦彦氏(長岡造形大学名誉教授・(財)山の暮らし再建機構 理事):

「山古志の復旧と景観」

- ・パネル・ディスカッション

青木勝氏(元長岡市山古志支所長)

鈴木重氏(中越みどり復興アシスタント代表)

上野祐治氏(長岡造形大学)

2) 各種委員会活動等

分科会、シンポジウム、ランドスケープセミナー等の活動を行うと共に、受託等による調査研究を進めた。

(1) 分科会

- ・平成22年5月24日(月)愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」において開催した。

参加者:175名

会場:ウイंक愛知

日程:9:30～17:00(受付9:00～)

第一会場 「良質な公共造園空間の創出に向けて～街路樹空間の発注者・管理者、設計者、
施工・管理者、利用者・市民の認識と空間評価について」
「クオリティライフの構築に向けたパークマネジメントプランの意味と役割」
「公園ユニバーサルデザインに関する取り組みの現状と課題」

- 第二会場 「ランドスケープ遺産インベントリーづくりの方向を考える
～地域活動から全国展開に向けてその2～」
「欧州ランドスケープ条約が東アジアのランドスケープ政策に示唆すること」
「市街地における集合住宅の緑の価値と充実を考える」
- 第三会場 「生態工学に関する企画展示」
「エコロジカルデザイン論」
「“アーバニズム”とどう向き合うか？その8 生物多様性と地域再生」
- 第四会場 「遊具のリスクマネジメントの動向と今後の展開」

(2) 公開シンポジウム

日 時：平成22年5月22日（土） 14：00～16：30

会 場：名城大学天白校舎

テ ー マ：「都市と里地里山」

目 的：近年、里地里山の過疎化、高齢化等による荒廃が進む中、里地里山における優れた自然資源管理の在り方や生物多様性への寄与、社会文化的価値に関する認識が急速に高まっている。世界的にみると、里地里山的な、農林業を中心とした人偽により維持形成されているランドスケープは多くの地域に存在するものの、さまざまな理由で存続の危機にさらされている。このような状況を踏まえ、2010年10月に愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約締約国会議（CBD COP10）を契機に、「SATOYAMAイニシアティブ」として自然資源の持続可能な管理・利用のための共通理念を構築し世界各地の自然共生社会の実現に活かしていく取組みを国際的に推進する枠組みが設立される予定である。

本シンポジウムでは、URBIOでの成果もふまえて日本のように人口減少が予見される国における里地里山的なランドスケープ及び都市が人口減少により変容する場合の都市辺縁部あるいは内部の緑地空間の適切な管理の在り方等について議論し、研究の新たな方向性を探ることを目的とした。

(3) ミニフォーラム・ポスター展示

全国大会ミニフォーラム・ポスター展示

日 時：平成22年5月22日（土） 11：00～18：00

5月23日（日） 12：30～14：00

会 場：名城大学天白校舎

ミニフォーラム

1. 海浜植物群落の保全・再生に向けて地域住民にどのような働きかけが重要か
2. 都市・地域づくりにおける生物多様性保全・回復とRLAの役割
3. 高度専門職業人としての環境・造園系技術者養成のあり方（その1）
4. 風景評価の異文化比較 ～日露風景比較プロジェクト・結果報告～
5. 日本造園学会「造園作品選集」刊行20周年記念「ランドスケープデザイン20年の軌跡」
6. RLA資格制度とこれからの展望
7. 「学生アイデアによる都市の生物多様性の創出についての提案」をめぐって

ポスター展示（5月22日～23日）

1. RLA資格制度の軌跡とこれからの展望

2. 堀川1000人調査隊2010
3. 平成21年度第36回全国造園デザインコンクール入選作品
4. 学生アイデアによる都市の生物多様性の創出についての提案
5. 関東支部の取り組み ～造園遺産インベントリーづくりと学生ワークショップの開催～
6. CPD制度の現状と今後の展開
7. 生態工学に関する企画展示

(4) 報告・その他

- ・全国大会公開シンポジウム報告（74巻2号）
- ・全国大会ミニフォーラム報告（74巻4号）
- ・全国大会ポスター展示報告（74巻4号）
- ・全国大会分科会報告（74巻3号）
- ・全国大会学生アイデアコンペ報告（74巻4号）
- ・第12回日中韓専門家会議・国際シンポジウム報告（74巻4号）
- ・研究発表会セッション報告（74巻3号）
- ・学会賞・上原敬二賞・特別賞の選考結果報告（74巻2号）
- ・学会賞受賞者業績要旨（74巻2号）
- ・上原敬二賞受賞者インタビュー（74巻4号）
- ・支部活動報告（74巻4号）
- ・ランドスケープ研究「特集企画」
 - ランドスケープ研究の潮流と展望（74巻1号）
 - 里山と市民ー新たな関係は構築されたか（74巻2号）
 - 環境テクノロジーがつくる風景（74巻3号）
 - ランドスケープ遺産インベントリーづくりの現在
 - ー地域活動から全国展開に向けた現状と課題（74巻4号）
- ・行政情報（74巻3, 4号）
- ・生き物技術ノート（74巻1, 2, 3, 4号）
- ・海外の造園動向（74巻1, 2号）
- ・弔文（74巻4号）

3) 出版物の刊行

- (1) 機関誌「ランドスケープ研究」の発行（74巻1～4号）
- (2) 研究発表論文集の発行（74巻5号）
- (3) 造園技術報告集の発行（74巻増刊）
- (4) シンポジウム・分科会講演集の発行

4) 学術の交流

内外学術諸団体等との連絡および提携を進めた。

(1) 国内交流

- ・日本農学会
- ・日本学会議
- ・J A B E E（日本技術者教育認定機構）
- ・日本ユネスコ協会他

(2) 国際交流

- ・平成22年10月29～31日に横浜市において、第12回日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウムを開催した。

5) 調査及び研究

委員会等による調査・研究活動をはじめ、公的機関等からの受託研究による学術的、実務的調査研究を進めた。

- (1) 環境・造園系専門職大学院等の認証評価に係る実施組織及び仕組みに関する検討その2（業務）
- (2) 第27回全国都市緑化ならフェア「花と緑の文化遺産シンポジウム」開催（業務）

6) 業績の表彰

選考規定に基づき、学会賞等の業績の選考を行った。表彰は平成23年5月の総会の席上で行い、表彰状、賞牌等を授与する。

(1) 日本造園学会賞

・本賞は、造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員に授与する。「日本造園学会賞」は研究論文、技術、設計作品の3部門があり、また、各部門に「奨励賞」が設けられている。

- ①研究論文部門
 - －飯島健太郎：屋上等の薄層軽量緑化を可能とするセダム類の生理生態の解明に関する研究
- ②技術部門
 - －伊東 伴尾：トルコ共和国三笠宮記念庭園の植栽と管理システムに関する造園技術
- ③設計作品部門
 - －岡田 憲久：武田薬品研修所の全体景と石庭－九山八海の庭－
 - －高崎 康隆：田園調布の四季の庭
- ④奨励賞
 - 1) 研究論文部門
 - －武 正憲：野外レクリエーション活動家の環境認識に関する研究
 - －中村 和彦：森林映像アーカイブの自然環境研究や環境教育などへの情報基盤としての有用性に関する研究
 - －根本 哲夫：集合住宅地開発計画にみる自然環境構造の特徴と住宅地環境の再生に関する研究
 - 2) 技術部門
 - －荒井 歩：石川県輪島市大沢・上大沢における間垣維持管理の工程
 - －土沼 隆雄：ポータランド日本庭園のディレクターシステムが果たした役割・意義と国際交流の多面的効果
 - 3) 設計作品部門
 - －清水 達也：道の駅「天童温泉」他2作品
 - －戸田 知佐：ROKIグローバル本社ビルランドスケープ他2作品
 - －吉澤 力：中京大学豊田キャンパスの改修ランドスケープ他3作品

(2) 上原敬二賞

・本賞は、造園の分野において著述、教育あるいはその他広範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められるものに授与する。

一坂本新太郎

(3) 日本造園学会特別賞

・本賞は、自然と文化の保全を図り調和のある、新しい環境の創造に寄与した優れた造園に関する業績（著作出版業績を含む）に授与する。

一建築物の屋上・壁面等の先端的な緑化技術の開発と普及啓発に関する一連の業績

：財団法人都市緑化技術開発機構（現：財団法人都市緑化機構）

特殊緑化共同研究会

一「ランドスケープの近代」の著作出版業績

：佐々木葉二・三谷 徹・宮城 俊作・登坂 誠

7) 技術の評価

造園CPDプログラム認定委員会において、毎月2回実施する電子会議にて、造園CPDに関わる継続教育プログラムとして申請された研修等の実施計画・内容等を精査し、学会が認定する造園CPDプログラムとしての可否等について審議した。その結果、平成22年度実施分のプログラム409件、平成23年度実施予定のプログラム11件を認定した（平成23年3月31日現在。なお平成22年度開催の認定プログラムは、前年度に認定したものと合わせ合計429件）。

8) 高度専門職業人としての環境・造園系技術者養成

高度の専門性が求められる職業人養成の機運を受け、平成21年に全国初の環境・造園系専門職大学院が開設された。環境・造園に関する深い学識や卓越した能力を培う技術者の養成が始まり、修了生にどのような能力を期待できるのか注目されているが、この専門職大学院は、第三者機関による認証評価が求められている。さて、（社）日本造園学会では、環境・造園系技術者養成について、造園CPD制度やJABEEにおける教育プログラム認定等を通じて、技術者の自己研鑽・能力向上を図ってきたが、さらに、「環境・造園系専門職大学院等の認証評価組織に関する検討委員会」を設置し、環境・造園系の高度な専門性を有する職業人がどういよう存在か、その教育をどのように行うべきかなどの、環境・造園系高度専門職業人の役割を社会に明示することを目指し、評価制度や評価組織のあり方、認証評価機関としての認証を受けるための準備等についての検討を進めた。

9) 国際組織との連携

第12回日中韓国際ランドスケープ専門家会議及び国際シンポジウムが、2010年10月29日(金)～31日(日)の日程で、横浜市開港記念会館を主会場として行われた。同大会は、前回2008年の中国・杭州大会まで毎年開催されてきたが、今回より隔年開催となった。横浜大会のメインテーマは、「次世代のランドスケープ「温故知新」～風土に根ざした市民のランドスケープへ～」で、29日にテクニカルツアー、学会長会議、30日にポスターセッション、国際シンポジウム、学生造園アイデアコンペ表彰式、31日に学術発表会が実施された。また、30日と31日の2日間、地方公共団体、公益法人、大学、企業等による最新の造園事情に関する付設展示（計75ブース）が行われた。

大会の開催にあたっては、全国都市公園整備推進協議会に共催いただき、国土交通省、環境省、神奈川県、横浜市に後援いただいた。また、(財)公園緑地管理財団他15団体に協賛いただいた。

1 0) ビジョン・タスクフォースの提案を受けた将来ビジョンの具体化の推進

将来ビジョンの具体化の推進に関しては、「コミュニケーションの活発化」「学会財政健全化の促進」「事務局機能の充実」の問題を中心に活動した。

学会財政健全化の促進に関しては、後に詳述するとおり未収入金の回収につとめるとともに、公益法人会計に対応した会計システムの構築を行った。

1 1) 造園CPD制度の推進

平成22年度は、前年度に引き続き、造園CPD協議会構成団体との連携を保ちつつ造園CPD制度の円滑な運営と造園CPD制度の広報・普及活動をおこなった。また、建設系CPD協議会と連携し、建設系CPD協議会事業に協力した。

制度の運営や広報・普及活動、制度に関する各種課題を検討するために、造園CPD推進委員会（平成22年4月13日）と企画会議（平成22年4月7日、8月24日、平成23年2月15日）を開催し、さらに随時企画会議メンバーでEメールを用いて各種の検討を行った。

造園CPD制度の運営については、次の業務を行い会員の利便に供した。

- ・造園CPD関連システム（会員登録、実施記録登録、実施記録登録証明書の申請、プログラム認定申請等）の運営
- ・造園CPD会員の入退会、会員区分異動の対応
- ・会員証の発行
- ・実施記録登録証明書の発行
- ・プログラムの認定にかかわる諸業務
- ・会員、造園CPD協議会構成団体からの各種問い合わせの対応

造園CPD制度の広報・普及活動としては、造園CPD制度ホームページの随時更新、日本造園学会全国大会におけるポスター展示「CPD制度の現状と今後の展開」の実施、建設系CPD協議会主催シンポジウムでの解説パネルの展示およびパンフレットの配布を行った。

造園CPD制度の改善としては、財政基盤の確立に関する検討や、認定プログラムの新しい実施方法に関する情報収集、地方公共団体等の発注者への要望書の発送実施と送付後の追跡調査方法についての検討を行った。

これらの活動により、平成22年度末の会員登録者数は9,556人（前年度末数9,732人）、認定プログラム総件数429件（前年度468件）となった。

建設系CPD協議会との連携については、協議会への委員派遣およびシステムの見直しや情報交換を行った。また協議会主催のシンポジウムの運営に協力した。

1 2) 情報化の推進および図書資料・データベースの利活用

学会ホームページ等オンラインでの情報提供の充実は、会員に対する情報提供の手段がウェブ上へと比重が移りつつある今日重要な課題である。そこで、情報化の推進に関しては、昨年度新しくした学会ホームページの運営や提供の仕方について検討を行い、運営に反映させた。また、従来一般誌に掲載されていた査読付論文を「ランドスケープ研究（オンライン論文集）」としてウェブ上への掲載を開始した。

1 3) 学会事務局の整備と財政健全化方策の推進

学会事務に関わる管理運営システムの整備については、会員管理システムを整備し会員の動向を把握するとともに、連携して会費等の納入状況が把握できる会計システムを整備した。また、公益法人会計に対応した会計システムを導入し試行を行いつつ、その構築を行った。

一方、財政健全化方策の推進に関しては、広告や調査研究の受託等による収入の増加に向けて努力した。そして印刷費を中心とした支出の抑制を実施した。

その他、政府が主導する公益法人改革に向けて対応を図るとともに、文部科学省および公益社団法人公益法人協会を通して実施される学会活動に関する情報収集に対して協力を行った。

1 4) 公益法人制度改革への対応

公益法人の認定に向けて、諸規定・規則の改定、学会事業の再編と会計システムの再構築、その他の関連事項の3点について、活動を推進した。

諸規定・規則の改定に関しては、社員総会の議決を要する定款、学会細則（学会の運営に関する規程に改称予定）および役員の報酬・退職金に関する規定（役員の報酬等に関する規程）の改正に係わる原案を作成した。また、それ以外には、規定の体系化や再編の枠組みを検討した。

学会事業の再編と会計システムの再構築に関しては、定款に記載する公益目的事業と、公益法人認定の際の事業区分との整合性を検討するとともに、公益法人認定に必要な財務計算のシミュレーションを行った。

その他の関連事項としては、今後の移行認定に係わるスケジュールと作業内容の概略を設定した。